



新年のご挨拶

新しい年を迎えました。本年も宜しく願い申し上げます。

昨年は協議会設立の10年目という節目の年でしたが、協議会では10年史の発行、ユニバーサルデザインフード自主規格第2版の発行など、大きな事業を形にした一年となりました。本年も、協議会ホームページの刷新など10周年事業を継続しますが、気持ちを新たにユニバーサルデザインフードの啓発に努め、利用者の皆様の日ごろの食生活にお役に立てるよう会員一同精進してまいります。

さて、平成23年度版高齢社会白書によると、総人口に対する高齢者比率は23.1%、要支援・要介護認定を受けている高齢者はおよそ450万人にのぼり、食べやすく加工された食品である「ユニバーサルデザインフード」を必要とされる方々についても施設や病院、在宅において増加していくと思われれます。特に在宅においては、ユニバーサルデザインフードをご存じでない方々がまだまだ大勢いらっしゃいます。先般、協議会では「11月11日介護の日」を契機に、ホームページにてユニバーサルデザインフードのプレゼントキャンペーンを実施しましたが、1,500名を超える多数のご応募をいただきました。皆様からは「このような食品を探していた」、「家族のためにぜひ試したい」といった類のことが主な応募動機として多くあげられておりました。同キャンペーンでは抽選で合計150名の皆様に会員各社提供の商品をお送りしましたが、実際に試食された方々の感想として、そのおいしさや食べやすさ、利便性を実感いただいたことはも

とより、「食べる楽しみ」の重要性を強く訴えたものが散見され、必要とされている方々に届くよう情報をもっと提供してほしい旨多くの声をいただいております。

昨今では、会員企業各位の努力もあり、卸売業、量販店、ドラッグストア等流通関係者の皆様においてもユニバーサルデザインフードに対する必要性のご理解がますます深まりつつある機運が醸成されてまいりました。これら関係各位のお力もお借りしながら、今後これまでに以上に皆様の手が届きやすいユニバーサルデザインフードを目指していく所存です。

協議会では、今後このようにますます増加すると思われる利用者の皆様に対して、安全性は当然のことながら、美味しさ、食べやすさ、使いやすさを追求し、生活の質（QOL）を高めていただけるような商品をご提供できるよう一層努力してまいります。

最後に、本年が皆様にとって喜びに満ちた良い年となりますことを祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

平成24年元旦

日本介護食品協議会
会長 古館 正史

「日本介護食品協議会10年史」の内容ご紹介②

協議会創立10年目に際して「10年史」を発行いたしましたことは、本誌11月号にてお伝えし、協議会活動として主要な記述のある「VI. 自主規格策定活動 1」の内容をご紹介いたしましたところ です。

今回は、引き続き同章2について抜粋してご紹介します。

- VI. 自主規格策定活動
- 2. 組織名称と商品群名称

(介護食品協議会(仮称)設立)ワーキンググループでは、介護食の業界団体として「協議会」を設立することが大きな目的であったが、その名称についても多くの案が検討された。結果的に、仮称としてきた「日本介護食品協議会」で決定することとなったが、案の中には「ユニバーサルデザインフード協議会」、「やわらか食品協議会」なども挙げられていた(第9回WG議事録から)。

介護食品は将来、業界自主規格により明確化を図る必要、また生産統計等をとる上でも統一した名称が必要となることが想定される。このため商品群名称についてもあわせて検討がなされたが、度重なる議論においてもワーキンググループでは決定できなかったため、これを引き継いで組織された「日本介護食品協議会設立準備委員会」にて審議されることとなった(平成13(2001)年9月～平成14(2002)年2月、4回開催)。協議会が考える「介護食品」については、摂食能力が低下した方々を想定した、あくまでも「口から食べる食品」を前提にしている。これは、糖尿病患者、腎臓病者といった特定の病者向けのものや流動食でもなく、被介護者や、介助なく食事ができるが硬いものは食べにくいといった方々も含めた幅広い方々を対象とするものであった。これまでには「高齢者用食品」や「シルバーフード」といった商品が上市されていたが、そのネーミングについての心理的抵抗から普及しているとは言いがたく、これに配慮した適切な名称が検討されることとなった。考案されたネーミング案は次の通り。

介護食、介護食品、やわらか食、やわらか食品、やわらかフード、やわらかメニュー、やわらかとろみ食品、きざみ食、ユニバーサル食品、ユニバーサルフード、ユニバーサルデザインフード、バリアフリーフード、ソフトミール、ヘルパーフード、ライフケアフード、ヒューマンケアフード、すこやか食品、すこやかフード、ライフサポートフード、ライフサポート食

品、ソフト&ヘルシー(ロゴマークとして)、やわらかフーズ、やすらぎ食品、やわらぎ食品、いやし系食品、パートナーフーズ、ケアサポートフーズ、サポートフード、ケアフーズ、エージフード、ハートフルフード、ケアウェルフード、介助食、快助食

以上、34の案に対して委員による投票および商標登録の有無を調査した結果、「障がいの有無にかかわらず誰もが使いやすい」といった意味で、協議会の考える「介護食品」の考え方によくあてはまる「ユニバーサルデザインフード」が採択されることとなった。

「日本介護食品協議会10年史」31-32より引用。

【会議、催事等の予定】

1月27日(金) 第1回普及技術容器合同委員会・懇親会(株マルハニチロ食品会議室)

【UDF商品登録状況(680品目・11月末現在)】

	区分1	区分2	区分3	区分4	とろみ調整	合計
乾燥食品	0	0	2	0	54	56
冷凍食品	85	31	290	12	0	418
常温食品	12	27	108	58	1	206
合計	97	58	400	70	55	680

【会員の異動(11月)】

計47社(11月末現在)。

◎日本介護食品協議会では会員企業を募集しています。協議会とユニバーサルデザインフードについては事務局までご連絡ください。

事務局：東京都千代田区神田東松下町10-2

翔和神田ビル3階(社)日本缶詰協会内

TEL 03-5256-4801 FAX 03-5256-4805

<http://www.udf.jp/>